

信濃



善光寺
病床の父弥五兵衛に食べさせたいと、一茶は門前町で梨を探す。晩年、善光寺の門人・上原文路の家に滞在中、一茶は二番中氣を患う。

長沼
西島士英、住田素鏡、村松春甫、松井松宇、佐藤魚淵など、帰郷後一茶は長沼に多くの門人をもつ。

奥州行脚
松尾芭蕉の『奥の細道』の跡をたどる。

西国行脚
京都・大阪、四国の讃岐・伊予、九州とめぐった後、上方に滞在して句集『旅拾遺』（寛政7年）、『さらば笠』（寛政10年）を編んだ。6年余りの旅だった。

父の弥五兵衛に頼まれて、京の本願寺を代参する。

大江丸、黄花庵升六らを訪ねる。

専念寺住職、五梅和尚を訪ねる。

西明寺で宿をたのむが断られ、庄屋の五井宅に泊まる。

栗田樗堂、魚文らを訪ね、竜徳寺山の十六日桜や道後の湯を訪れる。

柏原宿



二之倉村
母の実家で、二之倉村の役人を勤める大きな家。弥太郎はここで生まれた。主の徳左エ門は、一茶に嫁を世話したり、弟との遺産分けに立ち会う。

明尊寺
一茶の家の菩提寺。住職秀円は、仙六との遺産分けの調停をする。

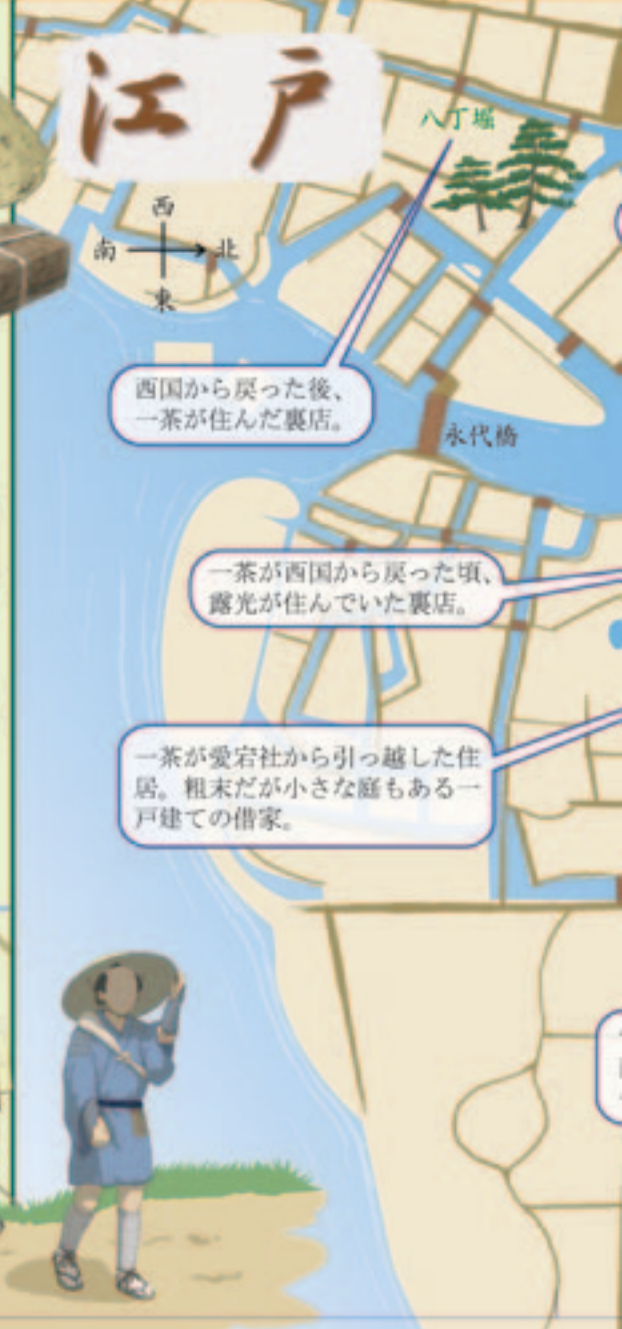
一茶の実家
父の死後、遺産分けが決着したあと、弟家族と半分に仕切って暮らす。柏原大火の後、一茶夫婦は土蔵に移り住み、一茶はその生涯を終える。

小丸山
一茶と菊の三男である金三郎も埋葬された小林家の墓がある。

本陣
柱国と頼国の中村家。弥太郎は先代の六左エ門から読み書きを教わった。

名主の家
柱屋
柏原の造り酒屋。

江戸



西国から戻った後、一茶が住んだ裏店。

一茶が西国から戻った頃、露光が住んでいた裏店。

一茶が愛宕社から引っ越した住居。粗末だが小さな庭もある一戸建ての借家。